

2. 活動報告（注1）

番号	3																		
テーマ	らしさの探求（造形）																		
実施回数・期間 （注2）	令和7年4月～令和8年3月 毎月1回																		
対象クラス・ 対象人数	<table border="1"> <tr> <td>0歳児クラス</td> <td>1歳児クラス</td> <td>2歳児クラス</td> <td>3歳児クラス</td> <td>4歳児クラス</td> <td>5歳児クラス</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>6</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>人</td> <td>人</td> <td>人</td> <td>人</td> <td>人</td> <td>人</td> </tr> </table>	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス					6	7	人	人	人	人	人	人
0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス														
				6	7														
人	人	人	人	人	人														
活動内容 （注3）	子どもたちの創造力、表現力をより引き出し、大好きを見つけてもらうために講師の知恵を借りて子どもたちの興味のありそうな内容の活動を行った。詳しくは報告書にて。																		
活動における チェックリスト	グループ単位での活動等により、乳幼児同士の対話、関わりを促した。 ※乳幼児同士の関わりを促すためにどのような工夫をしたか 毎回の活動のテーマに基づき、自分たちの思ったことを伝えあいながら活動を進めていた。また、作り終わった作品を認め合えるような場を作り、声掛けも意識した。 活動中の乳幼児の言葉、表情、ジェスチャー等の表現に着目し、メモ・写真・映像等で記録した。 ※記録をどのように行ったか 主に写真と文章で行った。 乳幼児一人ひとりが主体的に活動できるよう配慮した声掛け等を行った。 ※主体的な活動のためにどのような工夫をしたか テーマ設定はしていたが、そのテーマから発展したものに対しては、最後まで見守るよう意識した。毎回個性的な作品が出来上がっていた。 記録をもとに、乳幼児の関心や発見、表現を振り返った。 ※振り返りの実施方法 その日に感じたことを伝えあい、クラス会議で子どもの育ちや、改善点など具体的な話をし、報告にまとめた。 幼稚園等の各施設の教諭同士や保護者等に、探究活動の内容を共有した。 ※教諭や保護者等への共有方法 掲示板に報告書を掲示し周知をした。 次の探究活動の更なる充実に向け、新たな問いや環境の構成を考えた。 ※継続的な実施のための工夫 子どもの育ちを振り返ることにより、次にすべきことが見えてくるが多かった。振り返りを丁寧に行うことで新たな問いや、環境設定につながった。																		

（注1）活動報告は、複数の活動内容を実施した場合は、活動ごとに記入してください。

（注2）「実施回数・期間」欄には、今年度に継続的（月を単位とする複数月）に実施した取組の実施状況を記入してください。なお、原則、単発で実施した取組については対象になりません。

（注3）「活動内容」欄には、どのような取組を行ったのかがわかるよう記入してください。また、活動報告書等、取組を行ったことがわかる書類の写しを提出してください。

1. 活動のテーマ、問いを考える

【テーマ】らしさの探求(造形)

【問いを考える】

画用紙に1本線があったら、何が見えてくるだろう

2. 活動スケジュール

〈5歳児5名・4歳児7名〉

2025年4月～2026年3月

4月の活動

3. 環境設定と探究活動の内容

【環境設定】子どもたちの多様な表現力、そしてその子らしさを引き出すためには、専門的な視点で関わる講師の存在が必要であり、その学びを支えるために画用紙・粘土・クレヨン・絵の具・ハサミ・のりなどの道具を用意する。

【探究活動の内容】

画用紙に書かれた1本の線から、それぞれの想像したことを言葉にして、友達と共有しながら自分なりに表現する。

4. 活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり

画用紙に書かれた線を見て、「下半分の色が青かったら何が見えてくる？」の問いに「海」「道路」「棚」「縦にしたらスカイツリーに見える」など友達の言葉を聞きながら、たくさんの考えを言葉にして表現していた。書き始めると、車を描いてみたいがうまく筆が進まない子どもがいたので、保育士が先日利用したヒーローバスの話をしてみたところ、思い出しながら、一本の線にそって大きなバスの絵を描いていた。「楽しかったからピンクにする」等その時の様子を思い出して、気持ちまでも表現していた。海や、草原など集中して描いている子どもは見守り、絵の具を使ってはじき絵にするときには初めての経験で戸惑う子どももいたが、実際に見せることで、自分の描いた絵が浮き出てくることがわかり、空などを絵の具で塗って描きたい絵を深めていっていた。絵を見て「この魚本物みたい」など声を掛け合う姿が見られた。



5. 振り返り

子どもたちの表現がのびのびできるように、講師とのコミュニケーションに配慮して名前を貼るなどの対策をした。子どもたちの想像した言葉を聞きながら、子どもたちのイメージは尽きないことを感じた。また、頭の中のことをどう表出してよいかわからなそうな子どもの話を丁寧に聞き、共有しながら対話することで、子どもたちが描き進めていき、さらに色で気持ちを表現してくれた時には、かかわりの大切さを改めて感じた。

1. 活動のテーマ、問いを考える

【テーマ】らしさの探求(造形)

【問いを考える】真っ白な粘土から何が作り出せるかな

2. 活動スケジュール

〈5歳児5名・4歳児7名〉

2025年4月～2026年3月

5月の活動

3. 環境設定と探究活動の内容

【環境設定】

子どもたちの多様な表現力、そしてそのらしさを引き出すためには、専門的な視点で関わる講師の存在が必要であり、その学びを支えるために画用紙・粘土・クレヨン・絵の具・ハサミ・のりなどの道具を用意する。

【探究活動の内容】

・白い四角い粘土から作りたいものをイメージし思ったものを形にしていく

4. 活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり

マシュマロ粘土とは初めての出会いだったため、さわってみるところからはじめると「やわらかーい」「のびるー」等感触の感想を声に出していた。丸めたり、伸ばしたりと粘土と仲良くなったところで、子どもが「なんか足みたいなのできた」との声があったため、足が付いた生き物ってどんなものがある?という問いかけに、みんなで「タコを作ってみよう」となった。絵具と粘土を混ぜて色の変化を楽しむ子もいれば思うように色が混ざらない子もあり、保育士と一緒にどうしたら混ぜやすいかを考え広げたり、丸めたりをしている中で楽しくなってきて色遊びに発展する姿もみられた。タコを作ろうと始めたが、作りながら「せんせーこんな顔ができた」と違うものを作って声をかける子どもが出てきた。子どものうれしそうな顔を見て「ほんとだ。かわいいお顔だね」と声をかけると宇宙人のようなものを作り上げ、満足そうに「できた!」と完成させる。



5. 振り返り

5歳児と、4歳児の理解の差が大きく出たのを感じた。5歳児は話を理解し活動を進めていたが、4歳児は子どもによって難しそうにしている場面もあった。個別にかかわることさらに発展することもあり、子どもの好奇心や、探求意欲の高さを改めて感じた。一人ひとりがマシュマロ粘土を楽しみ、夢中になってその子なりの作品が作られていた。初めてのマシュマロ粘土に触れてから、作品が出来上がるまで集中が途切れることなく、夢中になって手を動かす子どもたちをみて、様々な素材に触れ、新しい経験を積み重ねることが、子どもたちの自信につながり主体性を育むことなのだと感じられた。

1. 活動のテーマ、問いを考える

【テーマ】らしさの探求(造形)

【問いを考える】

本物を見てどんな発見があるかな

2. 活動スケジュール

〈5歳児5名・4歳児7名〉

2025年4月～2026年3月

6月の活動

3. 環境設定と探究活動の内容

【環境設定】

・子どもたちの多様な表現力、そしてそのらしさを引き出すためには、専門的な視点で関わる講師の存在が必要であり、その学びを支えるために画用紙・粘土・クレヨン・絵の具・ハサミ・のりなどの道具を用意する。

【探究活動の内容】

・本物の紫陽花をみて、写生することを通して、観察をしたり、表現をしたりする。

4. 活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり

本物の紫陽花を近くでよく観察して、どんな形をしているのか、どんな色があるのかを言葉にしていた。保育者と一緒に言葉にしながら細かく観察していくうちに、花がどのようにつながっているのかなどの構造に着目する子どもや、花びら一つ一つの大きさの違いに気が付く子どもがいた。講師から画用紙に描いてみようという提案され、どんな描き方があるか保育者が尋ねる。子どもたちから絵具・クレヨン・色鉛筆などの声が出る中で「指でかいてみよう」という案がでた。他の子どもたちからも「面白そう」と声が広がり、花びらは指、葉っぱは筆で描くことになった。紫陽花の小さな花びらを表現するためにフィンガーペイントをし、葉は筆で描くことになった。葉のみどりをよく観察してみると絵具のみどりとは少し色味が異なるという話が出たため、色を表現するためにどうするかを子どもたちで話し合う。色味の調整をすることで本物に近い色に近づけると気付いた子どもたちからワクワクしている様子が感じられた。



5. 振り返り

指を使ったフィンガーペイントであったが、絵の具で汚れることを気にする様子もなく夢中になって描いていた。手が汚れることよりも、絵具の感触やフィンガーペイントならではの絵の質感などを感じることでワクワク感が勝り、活動が楽しいものになったからであると考え。同じものを描いても塗り方に個性がみられて、子どもそれぞれの表現の多様性を感じた。葉はただの緑ではなく別の色を混ぜ、色味の調整をすることで本当の色に近づける工程を加えることで、より絵にリアリティが出ていた。その結果、「本物みたいになった」と喜びや達成感を感じ、より本物に近づけるためのさらなる工夫への意欲を引き出すことができた。「絵を描くことは自由に描いて良い」と講師が言っていたように子どもたちが自分なりに思い描く形を表現できていることを言葉にして肯定していく点などを参考にし、子どもの姿を応援していきたい。

1. 活動のテーマ、問いを考える

【テーマ】らしさの探求(造形)

【問いを考える】

様々な形を組み合わせたらどんなものに見えるかな

2. 活動スケジュール

〈5歳児5名・4歳児7名〉

2025年4月～2026年3月

7月の活動

3. 環境設定と探究活動の内容

【環境設定】

・子どもたちの多様な表現力、そしてそのらしさを引き出すためには、専門的な視点で関わる講師の存在が必要であり、その学びを支えるために画用紙・粘土・クレヨン・絵の具・ハサミ・のりなどの道具を用意する。

【探究活動の内容】

・切り絵で動物を表現する

4. 活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり

「画用紙をこうやって切ったらどうなるかな?」という問いかけに対して、予想を口にする子どももいれば、ワクワクしながら見守る子どももいた。切った画用紙を配置して、「猫みたいに見えるよ」と発見をしていた。また、「長い鼻をつけて象さんにしよう」と言って、自分の作りたい動物のイメージを膨らませ、パーツを増やしていく姿も見られた。丸をハサミで切るのは難しく、講師や保育者に援助を求めている。保育者に手を添えてもらいながら丸を切り紙を動かすことに気づき、「できた」と喜びを口にしていった。成功体験を得たことで「今度はもっと大きい丸を切ろうかな」と自分で挑戦する意欲を見せていった。徐々に形になっていく動物をみて、保育者が声をかけなくても創作意欲が湧いているようであった。目を輝かせながら完成した作品を友達や保育者に見せ、こだわったポイントなどを意気揚々と話す姿が印象的であった。子ども同士で自分の作品を見せあい説明したりほめあう姿があった。



5. 振り返り

講師の「丸はどうやって切ろうかな」という言葉に対して、すぐに「難しい」と答える子どもの姿があった。ハサミではなく紙を動かして切ることに慣れていない様子であったため、保育者が手を添えながら一緒に行うことで感覚が得られるように関わった。自分で切れた子どもの表情は達成感にあふれていた。

切った画用紙を並べてみることで、動物の形が出来上がっていくことに楽しさを感じているようであった。頭の中に思い描いた形を表現するため、考えながら画用紙を切ることができていた。足りないパーツを付け加えたり、新たに思いついたものを切って作ったりと想像力を働かせて作っていく様子を大いに褒めながら、それぞれの個性を肯定していく言葉掛けをしていったところ、表情豊かに次々と思ったものを形にしていっていった。今後も考えることを形にする機会を作っていきたい。

1. 活動のテーマ、問いを考える

【テーマ】らしさの探求(造形)

【問いを考える】

自分の思い描いているものを表現するにはどのような方法があるのかな

2. 活動スケジュール

〈5歳児5名・4歳児7名〉

2025年4月～2026年3月

8月の活動

3. 環境設定と探究活動の内容

【環境設定】

・子どもたちの多様な表現力、そしてそのらしさを引き出すためには、専門的な視点で関わる講師の存在が必要であり、その学びを支えるために画用紙・粘土・クレヨン・絵の具・ハサミ・のりなどの道具を用意する。

【探究活動の内容】

・絵具を使って画用紙に自由に絵を描く

4. 活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり

水彩絵の具を使い自由画をおこなう。絵具の色は赤・青・黄・白の4色のみ保育者が用意した。絵具で描きたいものを描いてみようの声掛けに戸惑うことなく描き進めていた。色を塗る作業の中で「緑色になった」「あれ?青のままだ」と自分で色を作り出すことを楽しんでいた。パレットの中で絵具を混ぜ合わせる子どももいれば、画用紙に重ねて描くことで色を混ぜ合わせる子どももいた。異なる色を使うときには筆洗で筆を洗い、雑巾で拭いてから使用するという道具の使い方を保育者と一緒に学び、実践していた。筆洗が色水でいっぱいになったときには、子ども自ら気が付き水を入れ替える姿が見られた。自分の好きなものを紙いっぱいに絵を描くことを楽しんでいた。自分の作った色を友達に見せたり分けてあげたりなど子ども同士のかかわりも深まった。



5. 振り返り

あえて4色の絵具のみを用意することで、子どもたちから生まれる発想を引き出すことができた。また、この4色は色が混ざってもきれいな色になることを知ることができた。そのため、様々な組み合わせを試し新たな色の発見を喜びながら、個性豊かに表現することを楽しんでいた。知っている色の組み合わせだけではなく、偶然に出来上がった色からひらめきを得ることで、想像が膨らみ描き進めていた。子どもたちが意欲的に色混ぜを試しながら楽しめたように思う。子どもの新たな色の発見と一緒に楽しみ、さらなる意欲につながられるようにした。すぐに描き終えた子どもには、描いた絵を深掘りすることで、よりイメージが膨らむように関わった。そのような関わりのなかで「ここにもっと描き足してみよう」と思い付き、より個性あふれる作品になった。

1. 活動のテーマ、問いを考える

【テーマ】らしさの探求(造形)

【問いを考える】

自分の思い描いているものを表現するにはどのような方法があるのかな

2. 活動スケジュール

〈5歳児5名・4歳児7名〉

2025年4月～2026年3月

9月の活動

3. 環境設定と探究活動の内容

【環境設定】

・子どもたちの多様な表現力、そしてそのらしさを引き出すためには、専門的な視点で関わる講師の存在が必要であり、その学びを支えるために画用紙・粘土・クレヨン・絵の具・ハサミ・のりなどの道具を用意する。

【探究活動の内容】

・マシュマロ粘土で葉っぱと虫を作る。

4. 活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり

5月におこなったマシュマロ粘土での活動を思い出し、今日は何を作ろうかと期待感を抱く。粘土に触りながら「こんなにのびるよ」と嬉しそうに保育者に見せ、普段使っている油粘土よりも柔らかくよく伸びることに不思議さと面白さを感じているようであった。粘土の感触の楽しさを味わった頃、本物の葉っぱを見せる。「葉っぱだ!」「今日は葉っぱを作るの?」と期待感に満ちたまなざしで葉っぱをじっと観察し始める。保育者が「葉っぱってどんな模様?」と尋ねると、「線がある」「あみあみみたい」と発見を声に出して伝えていた。マシュマロ粘土に葉っぱを押しつけ、ゆっくりはがしていくと、粘土に葉っぱの模様がうつっていることに子どもたちが気が付き、驚きの声をあげていた。「私もやってみたい」と、粘土で葉っぱをつくることになった。本物そっくりの模様をつけることができ、「本物みたい!」と喜びを表していた。「葉っぱに何かのせてみようか」と保育者が提案すると、一人ひとり想像力を膨らませながら花や虫をつくっていく。何をつくっていいか悩んで困っている子どもに対して、かたつむりを手本として作って見せる。「どうやってつくるの?」と目を輝かせ保育者とともに創作を楽しんでいた。



5. 振り返り

本物の模様がそのまま粘土にうつることに子どもたちは驚き、もっとやってみたいと目を輝かせていた。模様を写し取る楽しさを感じることができたため、他のいろいろな模様を写し取る活動へも今後広がっていきたいと思う。葉の模様を写し取る過程の中で葉っぱの肌触りを確認したり、間近で模様を観察する経験にも繋がった。本物に近づけるためにはどうしたらいいか子どもに問いかけながら製作を進めることで、自分で考える力を養うとともに自分らしく主体的に参加できるように関わった。悩んでいる子どもには「ここをもっと細くしてみたらどうなるかな」などの具体的な案を提案するなど、子ども一人一人に合わせた関わりをすることができた。手をかけて作り上げた作品には愛着が感じられ、物を大切に扱う気持ちにも繋がると思う。

1. 活動のテーマ、問いを考える

【テーマ】らしさの探求(造形)

【問いを考える】

プラスチック板を温めるとどんな変化があるのかな

2. 活動スケジュール

〈5歳児5名・4歳児7名〉
2025年4月～2026年3月
10月の活動

3. 環境設定と探究活動の内容

【環境設定】

・子どもたちの多様な表現力、そしてその子らしさを引き出すためには、専門的な視点で関わる講師の存在が必要であり、その学びを支えるために画用紙・粘土・クレヨン・絵の具・ハサミ・のりなどの道具を用意する。

【探究活動の内容】

- ・油性ペンを使いプラバンに絵を描く。
- ・トースターでプラバンを温める。

4. 活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり

プラバンで作ったキーホルダーを見て、「どうやってつくるの?」「好きな絵がそのままキーホルダーになるの?」とキーホルダーが作れることに驚いたり、自分の描いた絵がそのままキーホルダーにできることを楽しみにしたりする姿がみられた。

「どんなキーホルダーを作りたいか?」との問いに「僕は車にしようかな」「猫ちゃんにする!」と自分はどんな絵を描こうかとワクワクしながら友だちと話し合う姿があった。ハロウィンが近かったため、かぼちゃを描こうとするこどももいたが、「かぼちゃってどんな形だっけ」と描きたいのに描けないもどかしさで手が進まない子もいたため、イラストを見せるなどして描きたいもののイメージが膨らむようにかかわった。

オーブントースターで温めていく工程で、「成功するかな…」と緊張した表情でじっと自分の作品をみつめ、プラバンがぐにゃっと変形した瞬間に「動いた!」と驚き、温めると形が変わることに気づいた。プラバンが小さくなっていくとともに描いた絵も小さくなっていることを不思議に感じつつ目をキラキラさせてその工程を観察している姿がみられた。



5. 振り返り

自分で描く絵がキーホルダーになることに期待感をもって、どんなキーホルダーを作ろうかとワクワクしながら意欲的に取り組む姿が見られた。プラスチックを温めると小さくなっていく変化を目の当たりにすると、声を上げて驚いたりじっと様子を見つめたり、今までに経験したことのないことに目を輝かせている子どもたちの姿があった。自分の想像したものを作り出す楽しさを十分に感じられる活動であった。今後も子どもたちの心が動くような喜びを多く感じられるような活動を考えていきたい。

1. 活動のテーマ、問いを考える

【テーマ】らしさの探求(造形)

【問いを考える】

自分の思い描いているものを表現するにはどのような方法があるのかな

2. 活動スケジュール

〈5歳児5名・4歳児7名〉

2025年4月～2026年3月

11月の活動

3. 環境設定と探究活動の内容

【環境設定】

子どもたちの多様な表現力、そしてそのらしさを引き出すためには、専門的な視点で関わる講師の存在が必要であり、その学びを支えるために画用紙・粘土・クレヨン・絵の具・ハサミ・のりなどの道具を用意する。

【探究活動の内容】

- ・クレヨンを使ってりんご、ピーマン、にんじんの写生をする。
- ・描いた絵をハサミで切って、紺色画用紙に糊で貼る。
- ・白色クレパスを使って、3つの食べ物が入るように大皿を描く。

4. 活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり

「りんごってどんな形でどんな色なのかな?」という保育者の問いかけに子どもたちはりんごをじっと観察する。すぐに「赤色」「まるい」という意見がでた。「他にはどんなことに気づきますか?」と問うと、さらに観察を続けていき「でも、下のほうは黄色っぽいよ」という気づきが生まれた。「よくみつけたね!下は黄色っぽい。じゃあ上のほうはどうか?」と尋ねると、さらなる発見をしようと意欲的に観察を始めた。見つけた色や模様を絵にかいてみようということになり、実物とクレヨンの色を見比べながら描いていく姿がみられた。隙間がないように塗りつぶしていくと、より本物に近づいていく。「この模様、本物みたいだよね!」「ここを黄色にしたんだよ」と、自分が工夫したポイントを保育者に共有していた。



5. 振り返り

実物を見ながら描くことで、描く大きさを比べたり、細部の色の違いを見つけて色を足したりしながら夢中になって取り組む子どもたちの姿を見ることができた。りんごは赤、ピーマンは緑、などそれぞれイメージする色を持ちながらも、実際には斑点模様があったりもっと大きかったりとたくさんのことに気付く様子に子どもたちの成長も感じた。また、絵を描く時には白画用紙を使うことが多いが、濃い色の画用紙を使用することで子どもたちが描いた絵が映える楽しさも感じることもできたのではないかとと思う。

1. 活動のテーマ、問いを考える

【テーマ】らしさの探求(造形)

【問いを考える】

自分の思い描いているものを表現するにはどのような方法があるのかな

2. 活動スケジュール

〈5歳児5名・4歳児7名〉

2025年4月～2026年3月

12月の活動

3. 環境設定と探究活動の内容

【環境設定】

子どもたちの多様な表現力、そしてそのらしさを引き出すためには、専門的な視点で関わる講師の存在が必要であり、その学びを支えるために画用紙・粘土・クレヨン・絵の具・ハサミ・のりなどの道具を用意する。

【探究活動の内容】

- ・色画用紙に鉛筆で魚の形を描いて、ハサミで切る
- ・切った魚に目などを描く
- ・向きを揃えて模造紙に魚を貼る

4. 活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり

講師が導入時に見せてくれた、画用紙を半分に折ってから下絵を描いて切って広げるやり方に挑戦してみようとする子が多かった。切ることを想定して半分の絵を描くのは難しかったようで手伝いを求める声も多く、「どうやってやるの」「やってみたい」と講師や保育者と一緒にやりながらコツを掴んでいく姿があった。作った魚に目を描いてみよう、と呼びかけられると、そこからヒレを付け足したり鱗の模様を描いてみたりと、自分なりに考えて取り組む様子があった。豊かな発想や工夫しようとする姿を言葉にして褒めると嬉しそうにしながら作っていた。最後にはひとつの作品として仕上がるイメージをもてるように伝え、魚を貼れる空いているスペースを友だちに教えてあげたり、向きが反対だよと知らせてあげたりして協力する様子も見られた。全員が貼り終わると、スイミーの絵本のようにひとつの大きな魚が出来上がって歓声を上げて喜び合っていた。



5. 振り返り

スイミーを題材にした活動で、講師が導入で大きなマグロの絵を描いてきてくれたことで、子どもたちの興味や関心がより膨らんでいた。普段の保育にも取り入れられる工夫だったので是非参考にしていきたい。製作中は、友だちと協力して完成させる達成感や喜びを大いに感じる事ができていた活動だったように思う。また、どこに貼れば大きな魚に見えてくるかなど、子どもたちなりに考え工夫して取り組めていて、楽しんでいる様子がとても伝わってきた。描く、切る、貼るといった簡単な作業だったこともあり、援助をしすぎないように見守りつつ声掛けを多くしていき、想像力を膨らませていけるように関わっていった。

1. 活動のテーマ、問いを考える

【テーマ】らしさの探求(造形)

【問いを考える】

自分の思い描いているものを表現するにはどのような方法があるのかな

2. 活動スケジュール

〈5歳児5名・4歳児7名〉

2025年4月～2026年3月

1月の活動

3. 環境設定と探究活動の内容

【環境設定】

子どもたちの多様な表現力、そしてその子らしさを引き出すためには、専門的な視点で関わる講師の存在が必要であり、その学びを支えるために画用紙・粘土・クレヨン・絵の具・ハサミ・のりなどの道具を用意する。

【探究活動の内容】

粘土で今年の干支の動物を作ってみよう

4. 活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり

講師が粘土を取り出すと「マシュマロ粘土だ!」「前は葉っぱとかたつむりを作ったよね」と前回の活動を思い出し、今日は何を作ろうかと期待感を抱く。粘土に触りながら「お餅みたいだね」とお正月の思い出からお餅に見立てる子どもがいた。「じゃあ今日はお餅粘土って呼んでみる?」と講師が聞くと、「いいね!」と粘土への親しみを感じていた。講師が、お餅の話から関連し今年の干支の話始める。子どもたちは「今年は午年だよ」と話し、自分の干支を嬉しそうに話す姿が見られた。「これでお馬さんが作れそうだよ!」という一人の発言から、馬にはどんな特徴があるのか積極的に意見を出し合う姿が見られる。そこで、講師が子どもから出た意見を踏まえてスケッチブックにイラストを描く。イラストを見ながら、まずは胴体から順にパーツを作っていくことになった。「このくらいかな?」と保育者や友達に尋ねたり、イラストと見比べたりすることで、形の調整をしていた。できたパーツをつなげていくと、馬の姿が現れる。どんどん馬らしくなる様子を見て、「もっと馬らしくするにはどうしたらいいかな」とさらに創作意欲を膨らませていた。完成した馬を動かして



5. 振り返り

紙粘土は柔らかさもあり子どもたちにとって扱いやすいやすく、今回も楽しんで取り組めていたと感じる。講師が進めていく中で、馬の全体像を丸や楕円などの簡単な図形で例える工夫があり、子どもたちに分かりやすく伝わっている様子がありとても参考になった。それぞれのパーツの大きさや形などを自分なりに工夫しようとする姿は大いに褒めていき、イメージを形にしていくなかで楽しさを十分に感じられるようにしていった。動物園やテレビで見た馬を思い出ししながら、蹄鉄や鞍がついていたことを講師や保育者に話して、一緒に形作って完成させていく子どもおり、探求しながら取り組む姿に成長を感じた。遊びながら子どもたちの気付きを取り入れて、よりその遊びを深めていく楽しさを得ることができた時間となった。